

施策番号	444	施策名	循環型社会の形成	主管課名	くらし安全課
総合計画 体系	政策名	4	快適な生活環境の里づくり	令和 2 年度課長名	小原 克則
	関係課名			シート作成者	山崎 裕司

1. 施策の対象と意図の指標

① 施策の対象(誰、何が対象か)		③ 対象指標(対象の数・規模)		単位	区分	30 年度	1 年度	2 年度	3 年度	4 年度
ア 町民	→	ア	人口	人	見込値			12,143	11,970	11,800
						実績値	12,926	12,754	12,625	
イ	→	イ	世帯数	世帯	見込値			5,600	5,600	5,600
						実績値	5,576	5,587	5,589	
ウ 世帯と事業所で発生した廃棄物	→	ウ	廃棄物量	t	見込値			2,604	2,827	2,658
						実績値	3,383	3,410	3,702	
② 施策の意図(対象をどうしたいのか)		④ 成果指標(意図の達成度)		単位	区分	30 年度	1 年度	2 年度	3 年度	4 年度
ア ごみを減らす	→	ア	1人当たりのごみの排出量(年間) ※集団回収を除く	kg	目標値	218.0	213.0	214.0	231.8	221.8
					実績値	261.7	267.4	293.2		
					達成率	83.3%	79.7%	73.0%	79.1%	75.6%
イ 適正に処理(分別する、不法投棄しない)する	→	イ	不法投棄苦情件数	件	目標値	7	6	5	5	4
					実績値	8	5	8		
					達成率	87.5%	120.0%	62.5%	62.5%	50.0%
ウ リユース、リサイクルを進める	→	ウ	ごみ減量・リサイクルに取り組んでいる町民の割合	%	目標値	82.0	83.0	84.0	74.0	75.0
					実績値	73.3	72.9	79.4		
					達成率	89.4%	87.8%	94.5%	107.3%	105.9%
エ	→	エ	資源ごみ集団回収量	t	目標値	365	380	400	225	250
					実績値	253	246	209		
					達成率	69.3%	64.7%	52.3%	92.9%	83.6%
⑤ 成果指標 設定の考え方	ごみの減量化が成果として求められることからごみの減量・リサイクルに取り組んでいる町民の割合(町民アンケート)及び人口1人当たりのごみの排出量を成果指標として採用した。				⑥ 成果指標の 把握方法と 算定式等	ア 一般廃棄物処理事業実態調査の結果等から、ごみの排出量を算出 イ・エ 役場(くらし安全課)データ資料 ウ 町民アンケート結果				

2. 施策の役割分担

施策成果向上 に向けた 住民と行政との 役割分担	① 住民の役割 (自助・共助・協働でやるべきこと)	② 行政の役割 (町・都道府県・国がやるべきこと)
	「食品ロス」、「ワンウェイプラスチック削減」、「詰替え商品の活用」等のReduce(発生抑制)をすることで、資源ごみとなるものを含む一般廃棄物の発生を減らし、「繰り返し使えるものを選ぶ」、「いらなくなったものは人に譲る」、「リサイクルショップ等を活用する」等のReuse(再利用)を行う。びん、缶、ペットボトル、プラスチック容器包装の適正分別し、Recycle(再生利用)しやすい形で排出する。また、環境衛生委員と町の協働でごみの分別指導、地域における集団回収の促進を進め、循環型社会へ転換する。	【町】一般廃棄物の処理。分別方法等の広報、ごみ収集ステーションの施設整備の支援。資源ごみ集団回収の支援、家庭用生ごみ処理機等の購入促進を行う。 【県】一般廃棄物の処理についての助言、産業廃棄物の処理 【国】循環型社会形成のために、ごみにならない商品開発を行うよう業界を強力に指導する。業界の新技术開発に助成する。

3. 評価結果

2 年度 の 評価結果	1. 施策の成果水準とその背景・要因																																																																																									
		<p>① 成果指標の時系列比較 (成果は向上したか? 低下したか? 要因は?)</p> <p>28年度から津山圏域クリーンセンターが本格稼働し、ごみ減量・リサイクルの推進等に取り組んでいる。成果指標の1人1日当たりのごみの総排出量は30年度から災害の影響で、増加に転じ、2年度も、コロナ禍の巣ごもりによるテイクアウトや自炊の増加に伴う生活系ごみの増加、自宅や空き家の片づけを行う時間ができたことによる片づけごみの増加の影響により著しく増加している。集団回収量は、年々減少しており、2年度も、コロナ禍で、地域活動が自粛され、回収を中止する団体もあり、著しく減少した。しかしながら、ごみ減量・リサイクルに取り組んでいる町民の割合は、増加に転じ、意識改革については、成果が上がっている。</p> <p>□ 向上した □ ほとんど変わらない ☑ 低下した</p>																																																																																								
	<p>② 他団体との比較 (近隣市町、県・国の平均と比べて成果水準は高いのか、低いのか、その背景・要因は?)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2"></th> <th colspan="2">全国平均</th> <th colspan="2">岡山県</th> <th colspan="2">津山市</th> <th colspan="2">勝央町</th> <th colspan="2">奈義町</th> <th colspan="2">美咲町</th> <th colspan="2">鏡野町</th> </tr> <tr> <th>実績</th> <th>前年度比</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1人当たりのごみの排出量(年間)</td> <td>336.1</td> <td>0.8</td> <td>367.0</td> <td>12.9</td> <td>242.8</td> <td>18.2</td> <td>241.1</td> <td>10.0</td> <td>259.9</td> <td>5.1</td> <td>249.6</td> <td>6.8</td> <td>236.3</td> <td>9.6</td> </tr> <tr> <td>(生活系排出量)</td> <td>233.7</td> <td>0.8</td> <td>242.0</td> <td>7.9</td> <td>199.4</td> <td>6.3</td> <td>158.1</td> <td>3.7</td> <td>246.6</td> <td>6.6</td> <td>209.9</td> <td>4.2</td> <td>205.4</td> <td>15.6</td> </tr> <tr> <td>(事業系排出量)</td> <td>102.4</td> <td>0.1</td> <td>125.0</td> <td>5.0</td> <td>143.4</td> <td>11.9</td> <td>83.0</td> <td>6.2</td> <td>13.3</td> <td>▲1.4</td> <td>39.7</td> <td>2.6</td> <td>30.9</td> <td>▲6.1</td> </tr> <tr> <td>リサイクル率</td> <td>19.6</td> <td>▲0.3</td> <td>29.0</td> <td>0.4</td> <td>19.0</td> <td>▲1.2</td> <td>19.4</td> <td>1.3</td> <td>9.4</td> <td>▲3.4</td> <td>22.6</td> <td>7.9</td> <td>19.3</td> <td>▲1.3</td> </tr> </tbody> </table> <p>排出量については、地域内では、概ね中間値、県・国と比較すると少ない。排出量は増加傾向。 リサイクル率については、地域内、国とはほぼ同水準、県と比較すると低い。県が高い要因は、水島地域の民間施設のリサイクル技術が国にでも先進的取り組みを行っており、引き上げられている。</p> <p>□ 高い水準 ☑ ほぼ同水準 □ 低い水準</p>		全国平均		岡山県		津山市		勝央町		奈義町		美咲町		鏡野町		実績	前年度比	1人当たりのごみの排出量(年間)	336.1	0.8	367.0	12.9	242.8	18.2	241.1	10.0	259.9	5.1	249.6	6.8	236.3	9.6	(生活系排出量)	233.7	0.8	242.0	7.9	199.4	6.3	158.1	3.7	246.6	6.6	209.9	4.2	205.4	15.6	(事業系排出量)	102.4	0.1	125.0	5.0	143.4	11.9	83.0	6.2	13.3	▲1.4	39.7	2.6	30.9	▲6.1	リサイクル率	19.6	▲0.3	29.0	0.4	19.0	▲1.2	19.4	1.3	9.4	▲3.4	22.6	7.9	19.3	▲1.3												
	全国平均		岡山県		津山市		勝央町		奈義町		美咲町		鏡野町																																																																													
	実績	前年度比	実績	前年度比	実績	前年度比	実績	前年度比	実績	前年度比	実績	前年度比	実績	前年度比																																																																												
1人当たりのごみの排出量(年間)	336.1	0.8	367.0	12.9	242.8	18.2	241.1	10.0	259.9	5.1	249.6	6.8	236.3	9.6																																																																												
(生活系排出量)	233.7	0.8	242.0	7.9	199.4	6.3	158.1	3.7	246.6	6.6	209.9	4.2	205.4	15.6																																																																												
(事業系排出量)	102.4	0.1	125.0	5.0	143.4	11.9	83.0	6.2	13.3	▲1.4	39.7	2.6	30.9	▲6.1																																																																												
リサイクル率	19.6	▲0.3	29.0	0.4	19.0	▲1.2	19.4	1.3	9.4	▲3.4	22.6	7.9	19.3	▲1.3																																																																												
	<p>③ 住民の期待水準との比較 (住民の期待よりも高い水準か、低い水準か、どんな意見や要望が寄せられているか?)</p> <p>「可燃ごみの収集日が少ない。冬はいいが夏は蛆がわくなど不衛生な状態になる。」、「コロナ禍で、地域の集団回収が実施されず、ごみに出しているので、町のごみステーションで古紙、古布の回収してほしい。」、「おむつが大量に出るため、困っている。収集日を増やすなり、真庭のおむつステーションを作ってほしい。」、「足が悪く、ごみ収集ステーションまで持って行くことが大変で、ヘルパーさんにたのんでいるが、個別回収はしてほしい。」等の意見が上がっている。</p> <p>□ 高い水準 □ ほぼ同水準 ☑ 低い水準</p>																																																																																									
	<p>2. 施策の成果実績に対する 2 年度の実績や目標達成度</p> <p>■ 2 年度の主な取組の成果(改革改善した取組、目標の達成度は?)</p> <p>・令和3年3月に小型家電回収BOXを鏡野町社会福祉協議会鏡野地域福祉センター、夢広場に増設し、携帯電話等小型家電を分別回収することで、不燃ごみ減量・リサイクルを行い、分別の周知を行った。 ・環境啓発写真及びパネル展を開催に際し、地域の活動、家庭の取り組みなどを募集し、応募のあった記録写真をベストロッチ館ギャラリー(来場者1,815人)、津山圏域クリーンセンターリサイクルプラザ(来場者2,908人)へ展示し、環境啓発を行った。 ・ごみ分別促進アプリ「さんあーる」を5月に配信開始し、登録件数が、約350件で現在も伸びている。アクセス件数は、6,000回を超え、定期的に使用されており、分別啓発の成果が上がっている。 ・以前からの取り組みとして、ごみ減量化、資源化、3Rの啓発をHP、広報紙や有線テレビ等を通じて行い、意識改革が進んでいる。</p> <p>□ 目標値以上 □ 目標値どおり ☑ 目標値以下</p>																																																																																									
	<p>3. 施策の今後の課題と改革改善の方向(うまくいかなかった取組や事務事業は? その原因は?)</p> <p>・ごみ処理機等購入助成事業 助成件数、H30:22件、R1:25件、R2:21件で、近年ほぼ横ばい状態で、事業開始から累計307件の助成を行った。一方で、非農家でコンポストを利用できないなどの意見や事業開始から十年経過し、一定数が行き渡り、需要が減ってきているように感じており、伸び悩んでいる。 ・資源ごみ集団回収奨励金交付事業 実働団体の減少、構成員の高齢化、買取単価の下落、買取品目の減少、コロナ禍で活動の自粛などの影響もあり、年々減少している。 ・上記の既存事業を行っているが、1人1日当たりのごみの総排出量の増加は著しく、中でも、可燃ごみ・粗大ごみが増加しており、(R2可燃ごみ及び粗大ごみ排出量:3.395t、前年度比282t増)新たな施策を講じる必要があると考える。 ・各種啓発活動により、リサイクルに取り組んでいる町民は、約8割にのぼり、意識は高い状況であり、分別の細分化を行い、可燃ごみ中の古紙、古布等の行政回収やおむつの行政回収などに取り組む必要がある。また、プラスチック資源循環促進法がR3.6に成立したことにより、今後、製品プラスチックの分別回収を行う方向となっている。 ・人口減少、高齢化が進んでいるが、世帯数が増える傾向にある。それに伴ってごみ収集ステーションも少しづつ増加し、利便性は向上しているものの、高齢者等のごみ出し負担は大きい。解消に向け、福祉部門と協働で、一般廃棄物収集運搬許可業者を活用し、個別回収を進めていく必要がある。 ・自宅や空き家の片づけ、空き家改修事業、空き家片づけ事業などの影響で発生する片づけごみの直接搬入が増加している。中でも粗大ごみが多く搬入されている。片づけごみの中には、まだ使えるものが多く、ごみとして排出するのではなく、リユースすることで、発生抑制につながると考えているが、町内にリサイクルショップがないこと、町事業としてリユース事業がないことなどの理由から、フリーマーケットや青空市場など、まだ使える物を融通しあえる環境整備を進める必要がある。</p>																																																																																									